

長崎歯科衛生士専門学校
令和3年度 第2回 学校関係者評価委員会会議録

日 時：令和4年3月23日（水曜）午後6時30分～7時40分
場 所：長崎県歯科医師会館 3階 学校会議室
出席者：【評価委員】 7名
 【専門学校】 5名

司会進行：井手教務部長

1. 開 会

2. 挨拶（岩永副校長）

3. 出席者紹介

4. 報 告

（1）第31回歯科衛生士国家試験について

- ・既卒生も含め、本校学生全員元気に会場入りした
- ・合格発表は3月25日（金曜）だが、自己採点では既卒生ともに合格ラインに達した

（2）令和3年度卒業生就職状況について

- ・出身地区別に表しており、うち1人は国家試験自己採点后活動し内定した
- ・未定者1人は県外就職希望者、現在求職中

（3）令和4年度学生募集状況について

- ・次年度新入生については、定員を確保することができた
- ・オープンキャンパスへの参加誘導、高校訪問回数増加等の成果かもしれないが、これまで継続してきたことなので、はっきりした理由はわからない。TV広告の効果はあったと思われる

（4）委員任期について

- ・年度での対応を、今後は県歯役員任期と合わせ6/30までとする

5. 協 議

（1）令和3年度前期自己評価について

＜基本方針・目標等＞

- ・コロナ禍であっても医療従事者として自覚を持つことが必要
- ・個別指導→学生同士もだが、近すぎず遠からず相談の場を持つ
- ・多職種との連携は欠かせない。教育の目標として育成したい
- ・根本的な見直しが必要な時期。どんなことをした方がよいかアドバイスが欲しい

＜教育理念、目標＞

- ・人に優しい歯科衛生士という表現はとても分かりやすい。折に触れ、伝え話しているのはいいと思う

<学校運営>

- ・丁寧に効率化を図りたい。学生よりの悩み相談BOXを作ることを検討したい

<教育活動>

- ・教員間で連携しながらやっていきたい。
- ・講義感想は、後輩のために建設的な意見を記入するようお願いする。もちろん講師側も読んだら変わるよう努力しコメントも返す。
- ・教員間の教育ワークショップでは学ぶ人に沿いなさいという流れであるが、講師に伝えることもできない。事例的なものを用いまとめを踏まえる。どういうふうに授業を構成すると居眠りしないのか講師が考える時代ではないか

<学修成果>

- ・退学者を減らす工夫の一つとして、入学前教育を行った。入学前に学習する習慣作りに役立つことを期待している。また、歯科衛生士の魅力を伝えるために、入学して早い時期に新卒者からの講義を予定している

<学生支援>

- ・4月より成年年齢が下がり、親の承諾なしで契約等できるが取り消しができないなどの指導に本校でも取り組んでいきたい

<教育環境>

- ・防災に関し若干点数が低い。現在は避難訓練がなく口頭で伝えている。県歯と連携し行っていかなければならない

<学生の受入れ募集>

- ・今回、定員確保。新聞やCMメディアが大いに力になる。歯科衛生士の存在をあらゆる年代が知ることができるような対策を考えたい
- ・令和4年度の募集より男女ともに受け入れ可能としたが、今は、男子学生の入学以上に歯科衛生士の認知度を上げることが先。どれだけの男性が歯科衛生士を目指すのか？訪問介護での活躍が期待できる。看護師も男性定着までに20年かかった。全国での男性歯科衛生士数は91人。あせらずにすすめたい

<財務>

- ・努力を続ける

<社会貢献 地域貢献>

- ・コロナ禍としてのコメント。できる限りの活動できる範囲で行いたい。長崎の地域性としてコロナ0が2か月続かないとまだまだ活動は厳しい。学生の中や家族にも感染者が出た場合、対応も非常に難しく、一步間違るとクラスターになるので常にしつこく油断するなど言い続けなくてはいけない

(2) その他